

行の融資上最も重要な資料の審査を行う機関である科学技術行政協議会産業技術審議会は、予算的にもまた人的にも弱体で審査活動の上に大きな制約を受けていることを知り、遺憾に堪えません。

つきましては、新予算の編成に当つて、この点を十分に考慮されるよう本会議第14回総会の議により希望いたします。

2-47

庶発第147号 昭和28年5月6日

文部大臣 日本育英会会長 あて(各通)

日本学術会議会長 亀山直人

新制大学院における奨学制度について(要望)

本会議は、新制大学院における奨学制度が研究者育成に対して不可欠であるとの見地に立つて、その確立を強く要望してまいりました。しかるに目下新制大学院に施行されようとしている特別奨学生制度は、従来学部学生に対して施行されてきたものであります。これをそのまま新制大学院修士課程に適用することは、その金額においてもその適用率においても極めて不充分であるとみなさざるを得ません。従つて、もしこの制度がそのまま施行されるときは、優秀な素質ある者を大学院に容れることが非常に困難となることを深く憂慮するものであります。

本会議は、新制大学院制度が修士課程といえども、大学における学部教育の延長ではなく、主として研究者の育成に目標をおくものであるとの立場から、従来の旧制大学院に対して施行されてきた特別研究生制度を拡充して新制大学院に対して施行されることを要望します。

2-48

庶発第146号 昭和28年5月6日

日本開発銀行総裁 小林 中 殿

日本学術会議会長 亀山直人

新技術工業化のための融資について(要望)

本会議は、研究成果実用化委員会において検討した結果、貴行が行つておられる新技術工業化のための融資状況は、漸次満足すべき方向に進み、本会議の意図するところに近づきつつあることを知りました。貴行の御努力に対し深く敬意を表します。

しかしながら、新技術の工業化は、現在決して満足すべき状態ではありません。貴行の融資総額が現在より増額されるならば、甚だ有益だと存じます。その実現に対して一層の御協力を賜りますようお願い申し上げます。